ずっと成長していたい、自分を磨きたいから

60歳からも、まだまだ学ぶ！

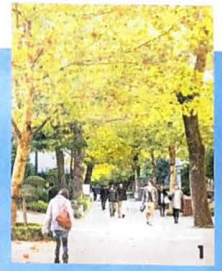
かつて学校に通っていたとき、勉強は「しなければいけないもの」だったかもしれません。しかし人生の経験を積み重ねた今、勉強は自分を磨く大切な手段です。今回の特集テーマは「大学での学び」。「学びたい」、「知見を広げたい」、「自分を磨きたい」といった知的好奇心と向上心に応えてくれる学舎を紹介します。

撮影／八幡信（P4～7、10、11）、与儀達久（P8、9）

※この特集で掲載している情報は2011年12月25日現在のもので、その後変更になる可能性があります。学費や授業期間、入学や出願の手続き、日程といった詳細については、各大学窓口までお問い合わせください。

立教セカンドステージ大学

学生同士が刺激しあって、新しい経験がどんどん生まれる！



1 池袋キャンパス内のプラタナスの並木道。「鈴懸の径」と呼ばれている。2 歴史的な建造物が多く、独特の雰囲気があるキャンパス。

大時計のある本館（モリス館）。立教大学を代表する建物だ。

50歳以上を対象にしたオリジナルのプログラム

立教セカンドステージ大学は、「学び直し」と「再チャレンジ」のサポートを目的に、2008年に設立された「学びの場」。50歳以上という年齢制限を設けている日本でも珍しい生涯学習機関で、文部科学省が認可する大学と異なるオリジナルのカリキュラムを設けています。履修期間は1年ですが、「超高齢社会論」「生涯現役という生き方」「社会老年学入門」「セカンドステージとソーシャルビジネス」といった、これからの人生をいかに生きるかということをしっかり考えることができる講座が体系的に用意されていて、内容は充実のひと言。2009年度からは、本科の修了者が進学できる専攻科（1年）も設けられています。

講義の時間は、主に午後から夕方にかけての時間帯。立教セカンドステージ大学は単位制になっていて、修了するには規定の単位数を修得しなければいけません。単位を取るためには、週に3日程度通学することになります。立教大学池袋キャンパスは繁華街にも近く、学生数も多いので、いつも賑やかな雰囲気。ツタが絡まる歴史的な建物の間を歩けば、学びへの意欲が自然と高まってきます。

入学者の平均年齢は60代前半。出願時にはエッセイ（2500字）の提出と、学ぶ姿勢を審査する面接試験があります。

経験豊富な学生は授業でも積極的

エネルギー関連の会社を退職して、現在立教セカンドステージ大学で学ぶ新藤勇さん（63歳）。2008年の設立から、ずっとこの大学に注目してきたと言います。

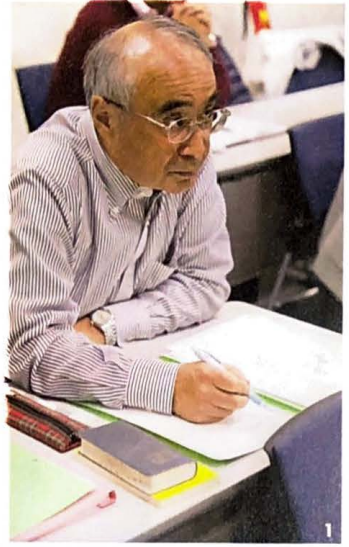
「この大学の魅力は、バックグラウンドが異なるさまざまな学生が集まっていることだと思います。先生が教える内容を、これまでビジネスの現場で実践してきた人もいるわけです。講義では、知識と経験がクロスして、いつも新しいものが生まれる実感がありますね」と充実ぶりを語ってくれました。

「受講者が経験豊富なので、教える側としても刺激的です」と語るのは、現在NHK「ニュースで英会話」の監修と講師を務めている鳥飼玖美子教授。

「体系的に学びたいという意欲があるので、皆さんとても積極的。熱意を持って聞いてくださるので、とてもやりがいがあります」と語ります。

50歳以上という年齢層に合わせて、授業科目が体系的に用意されている点は魅力的。体系的に学び直しをした上で、その中から自分が本当にやりたいことを見つけていくこともできます。人生の再スタートを切る場所として、立教セカンドステージ大学は最適な選択肢になるはずです。

異文化コミュニケーションが専門の鳥飼玖美子教授。



1 辞書を傍らに、真剣に講義を聴く新藤さん。授業は「コミュニケーションに使える英語を考える」。2 少人数のグループに分かれてディスカッションした後、それぞれに意見をまとめて発表する。

DATA

立教セカンドステージ大学

東京都豊島区西池袋3-34-1（池袋キャンパス）
☎03-3985-4672
http://www.rikkyo.ac.jp/academics/lifelong/secondstage/

通常の4年制大学とは異なる、オリジナルのカリキュラムを提供するシニア向けプログラム。出願資格は50歳以上で、高等学校卒業程度以上。1科目が半年で終了する前期・後期制で、修了には18単位以上修得することが必要。登録料10万円、受講料30万円のほか選考料1万円が必要。池袋キャンパスは池袋駅西口から徒歩7分。

※料金や内容は変更の可能性があります。